

研究分野のキーワード：英語史，古英語，語順

研究紹介

英語にはおよそ1,500年の歴史があります。これだけの期間があれば、どんな言語でも少なからず変化します。国語で読む古文を考えてみれば、想像がつくかもしれません。『源氏物語』や『枕草子』はおよそ1,000年前の日本語で書かれていますが、今の日本語と単語も文法も大きく異なっていて、日本人でもとても読むのに苦労します。

私の専門分野は、英語がどのようなプロセスで今のような姿になったのかを考える英語史という分野です。私はその中で、特に1,100年くらいまでの最も古い時代の英語（専門用語で古英語と言います）の文法がどのようなものであったかを研究しています。今に至る歴史を考えるため、まずは最も古い時期に目を向けようと学生時代に取組み始めた研究ですが、分からないことは無数にあり、以後約20年、いまだその時代にとどまっています。

特に研究対象としているのは単語の並べ方（語順）です。古英語では、I study English. というSVO語順だけでなく、I English study. というSOV語順もよく見られます。これがどのような条件下で可能であったのか、どのようなプロセスでなくなっていったのかを、当時の文献を読みながら考えています。

私の思う研究の醍醐味は二点です。一つは、非常に限られた資料から大きな問題を考えるという不自由さです。当時の言語資料は書かれた物のみで、しかもその分量は極僅かです。それを工夫してあの手この手で分析して、当時の文法に迫ります。二点目は、答えがないことを考えるというある種の非生産性です。誰も母語話者がいないわけですから、恐らく当時の話者に聞けばすぐにわかることでも、解明は困難を極めます。そういう問題をああたこうだと日本中、世界中の他の研究者と議論するわけです。

以上の二点は私の分野に限らず多くの研究分野に当てはまることであり、さらには大学での勉強にも大方当てはまることかと思えます。